

# 奈良国立博物館だより

第 **131** 号

令和6年 10・11・12月



正倉院宝物 黄金瑠璃細背十二稜鏡（南倉）

## 特別展

### 第76回 正倉院展

10月26日(土)～11月11日(月)  
東・西新館

## 特別陳列

東大寺伝来の伎楽面  
—春日人万呂と基永師—  
10月1日(火)～12月22日(日)  
なら仏像館 第9室

## 特別陳列

聖武天皇の大嘗祭木簡  
10月22日(火)～11月11日(月)  
なら仏像館 第13室

## 特別陳列

春日若宮おん祭の信仰と美術  
12月7日(土)～1月13日(月・祝)  
東新館

## 特集展示

新たに修理された文化財  
12月17日(火)～1月13日(月・祝)  
西新館

## 名品展

珠玉の仏たち  
通年 なら仏像館

中国古代青銅器  
通年 青銅器館

珠玉の仏教美術  
12月7日(土)～1月13日(月・祝)  
西新館

特別展

# 第76回 正倉院展

令和6年10月26日(土)～11月11日(月)

古都・奈良の秋を彩る正倉院展は、今年で第七十六回を迎えることとなりました。

正倉院宝物は、奈良時代にわが国を治めた聖武天皇のご遺愛品を中心とした、天平文化の粋を伝える貴重な宝物群です。これらはかつて東大寺の重要な資財を保管する倉であつた正倉院正倉に納められ、勅封などの厳重な管理のもと、今日まで守り伝えられてきました。

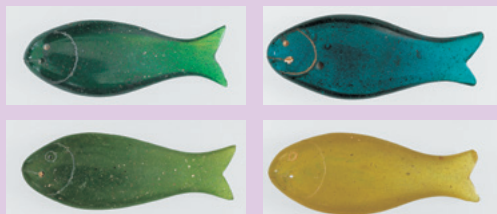
聖武天皇の御即位千三百年にあたる本年も調度品や服飾具、仏具・文書といった、正倉院宝物の多彩な世界をご堪能いただけるラインナップで開催いたします。なかでも、「紫地鳳形錦御軾」(錦張りの肘おき)は、聖武天皇がお使いになった品として格別の意義をもつ至宝です。また、色ガラス製の装身具や、正倉院では唯一の七宝装飾を施した鏡など、色とりどりのガラスの宝物が、私たちの目を楽しませてくれます。さらに今年は、宮内庁正倉院事務所が監修した宝物の再現模造も多数展示され、宝物により深く親しんでいただける内容となっています。



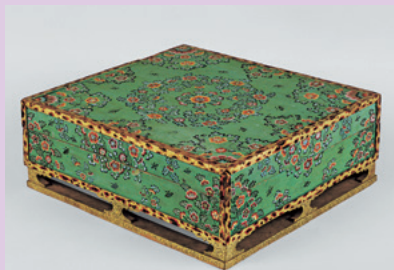
鹿草木夾纈屏風(北倉)



紫地鳳形錦御軾(北倉)



深緑瑠璃魚形、浅緑瑠璃魚形、碧瑠璃魚形、黄瑠璃魚形(中倉)



緑地彩絵箱(中倉)



伎楽面 酔胡従(南倉)

特別陳列

## 東大寺伝来の伎楽面

— 春日人万呂と基永師 —

令和6年10月1日(火)～12月22日(日)

東大寺と正倉院には、奈良時代にさかのぼる完形に近い伎楽面が東大寺に三十面、正倉院に百七一面遺されています。これらは元来東大寺が管理してきた品で、天平勝宝四年(七五二)四月九日の大仏開眼会で演じられた伎楽に用いた面が多くふくまれています。

本展では東大寺所蔵および近代に同寺を離れた伎楽面のなから、近年の研究であらたに確認された伎楽面作者である春日人万呂の三面をそろって公開します。あわせて大仏開眼会の面を制作した基永師の酔胡王と酔胡従を一堂に展示することで、个性的で異国情緒あふれる伎楽面の魅力に迫ります。



伎楽面 太孤父 春日人万呂作(個人蔵)



特別陳列

# 聖武天皇の しょうむてんのう

## 大嘗祭木簡 だいじょうさい

令和6年10月22日(火)～11月11日(月)

今年二月、平城京の発掘調査で、聖武天皇の大嘗祭に関わる木簡が出土しました。大嘗祭とは、天皇が神々に五穀豊穡や国家安寧を祈願する毎年の儀式のうち、即位後に初めて行われる重要なものです。今年は、聖武天皇の即位からちょうど千三百年にあたる年。この記念すべき節目の年に、奈良文化財研究所との共催で、出土木簡の一部を公開します。聖武天皇ゆかりの宝物が並ぶ正倉院展とあわせて、是非ご覧ください。



聖武天皇の大嘗祭に関わる荷札木簡（奈良文化財研究所）

特別陳列

# 春日若宮おん祭の信仰と美術

令和6年12月7日(土)～令和7年1月13日(月・祝)

春日若宮おん祭は、一年に一度、春日大社の若宮社（若宮神社）より御旅所へ若宮神をお迎えし、一日二十四時間にわたりさまざまな芸能を捧げる祭礼です。御旅所の若宮神のもとに祭礼参加者が詣でる風流行列や、田楽や舞楽、猿楽などの芸能神事が有名です。平安時代の保延二年（一一三六）に始まり、古儀の祭礼を守り続けて今年で八八九年目を迎えます。

本展はおん祭の歴史と祭礼、ならびに春日大社への信仰に関わる美術を紹介する恒例の企画です。精緻な技巧が凝らされた神宝とともに、近年行われた文化財復元の成果もあわせて展示します。春日信仰にまつわる数々の作品を通じ、大和一国を挙げて行われた華やかなおん祭の世界をご覧ください。



金鶴洲浜台 復元新調（部分）  
（奈良・春日大社）



春日若宮御祭礼絵巻（中巻部分）  
（奈良・春日大社）

特集展示

# 新たに修理された文化財

令和6年12月17日(火)～  
令和7年1月13日(月・祝)

長い歴史を経て今に伝わる文化財は、その多くが過去に人の手による修理を受けながら大切に保存されてきたものです。これらの文化財をさらに未来へと継承していくために、当館では、彫刻・絵画・書跡・工芸・考古の各分野の収蔵品（館蔵品・寄託品）について、毎年度計画的に修理を実施しています。

本特集展示では、前年度までに修理された収蔵品の中から選りすぐった文化財を展示公開すると共に、その修理内容についてパネルでご紹介いたします。



絵画の剥落止め作業（重文 十二天像・当館）

# かすがのひとまろ 春日人万呂

—新発見の伎楽面作者—

当館学芸部主任研究員 山口隆介

錦秋の奈良を彩る正倉院展が目前に迫ってきた。本年は正倉院展と一部重なる会期（十月一日〜十二月二十二日）で、なら仏像館第九室において特別陳列「東大寺伝来の伎楽面―春日人万呂と基永師―」を開催する。この展覧会では、東大寺所蔵および近代に同寺を離れた伎楽面のなかから、最近の研究であらたに確認された伎楽面作者である春日人万呂作の三面〔図1〜3〕をそろって公開するとともに、天平勝宝四年（七五二）四月九日の大仏開眼会の伎楽面を制作した基永師による醉胡王と醉胡従の面を一堂に展示する。

東大寺と正倉院には、完形に近い伎楽面が東大寺に三十面、正倉院に百七十一面遺されている。これらは元来東大寺が管理してきた品で、奈良国立博物館では東大寺からの寄託品や正倉院展で展示をおこなってきた。それぞれが個性的で異国情緒あふれる伎楽面は、空間をたちまち華やいだ雰囲気にする特別な魅力をもっている。

伎楽面には裏面に墨ないし朱漆で「東大寺」の銘記をはじめ、作者名や年紀、役柄などをするものがあるが、面裏の朽損により文字がかすれて作者不明の面が少なくない。今回の特別陳列で春日人万呂の作として紹介する迦楼羅〔図2〕と毘闍〔図3〕

〔図3〕も、墨書が不鮮明で長らく作者を突き止められずにいた。

転機は、いま個人が蔵する太孤父面〔図1〕との出会いだった。この面は近代に東大寺を離れたのち、昭和十四年（一九三九）にドイツ・ベルリンで開催された「伯林日本古美術展覧会」に原富太郎（三溪 一八六八〜一九三九）の所蔵品として出品された。同展のカタログに作者の情報は無いが、面裏を詳しく調べてみると「東大寺春日人万呂作」〔図4〕の墨書が見出された。

にわかに現れた春日人万呂なる作者について、筆者の調べが及んだかぎりでは、従来東大寺および正倉院の伎楽面にその名は確認されていない。また、作者の個性があらわれる耳の彫り方を他面と比べてみても、同一人の作とみなしうる面は見当たらなかった。ただし獣耳ではあるが、迦楼羅と毘闍〔図2・3〕の面裏にあるかすれた墨書を太孤父面のそれと比較すると、「人」字の二画目を長くあらわす特徴的な筆法などが一致したため、この二面も人万呂の作と判断した。

春日人万呂の伎楽面作者としての輪郭はいまだ明らかでなく、研究は緒に就いたばかりだ。各所蔵者のご厚意により三面がそろった今回の特別陳列は、人万呂面の研究を深める絶好の機会となるだろう。そして本展は、正倉院以外の基永師作の醉胡従面が一堂に会するまたとない機会でもある。東大寺ミュージアムでは、十月十八日から特集展示「捨目師の作った伎楽面」が始まる予定であり、正倉院展に出品される同人作の醉胡従面（出品番号27）とあわせて必見だ。この秋は正倉院展、なら仏像館、東大寺ミュージアムをめぐり、作者それぞれの個性に注目しながら、伎楽面の魅力を存分に味わっていただきたい。



図1 伎楽面 太孤父(個人蔵)



図2 重要文化財 伎楽面 迦楼羅(奈良・東大寺)



図3 重要文化財 伎楽面 毘闍(奈良・東大寺)



図4 伎楽面 太孤父 面裏墨書(個人蔵)



出陳一覧

名品展

珠玉の仏たち

なら仏像館

令和6年10月1日(火)～12月22日(日)

【第1室】

阿彌陀如来立像

個人

観音菩薩立像

文化庁

不動明王立像

正智院

天部形立像

法明寺

大黒天立像

西大寺

聖徳太子立像

成福寺

【第2室】

阿闍如来坐像

西大寺

釈迦如来坐像

東慶寺

文殊菩薩坐像

薬師寺

毘沙門天立像

如法寺

菩薩立像

金龍寺



重文 菩薩立像 (金龍寺)

【第3室】

宝冠阿彌陀如来坐像

安楽寿院

阿彌陀如来坐像

現光寺

如来坐像

法徳寺

阿彌陀如来立像

善集院

阿彌陀三尊像

個人

【第4室】

如意輪観音菩薩坐像

当館

釈迦如来立像(清涼寺式)

当館

如来立像

個人

諸尊仏龕

個人

諸尊仏龕

寂照寺

【第5室】

誕生釈迦仏立像

正眼寺

誕生釈迦仏立像

悟真寺

誕生釈迦仏立像

当館

菩薩半跏像

神野寺

菩薩立像

法起寺

観音菩薩立像

法徳寺

観音菩薩立像

興福院

観音菩薩立像

法隆寺

観音菩薩立像

観心寺

観音菩薩立像

金剛寺

十一面観音菩薩立像

一乗寺

如来坐像

当館

誕生釈迦仏立像

個人

二仏並坐像

当館

菩薩立像

個人

十一面観音菩薩立像

個人

力士立像

個人

如来立像

光明寺

如来立像

当館

三尊博仏

南法華寺

小型独尊倚像博仏

当館

(大分県虚空蔵寺跡出土)

当館

小型独尊博仏

当館

(三重県夏見廃寺出土)

当館

塑像断片(迦樓羅頭部ほか)

当館

(奈良県川原寺裏山遺跡出土)

明日香村教育委員会

塑像断片(天部・僧形像ほか)

福命寺

(滋賀県雪野寺出土)

福命寺

【第6室】

天部形立像

兵庫県

広目天立像

興福寺

薬師如来立像

元興寺



重文 釈迦如来立像 (当館)



加藍神立像 (当館)

如来立像

当館

阿彌陀如来坐像

歎喜寺

宝冠阿彌陀如来坐像

當麻寺

伽藍神立像

当館

【特別公開】

金剛力士立像

金峯山寺

【第7室】

光背(二月堂本尊所用)

東大寺

観音菩薩立像

当館

観音菩薩立像

文化庁

観音菩薩立像

勝林寺

十一面観音菩薩立像

地福寺

千手観音菩薩立像

園城寺

十一面観音菩薩立像

勝林寺

十一面観音菩薩立像

新薬師寺

十一面観音菩薩立像

薬師寺

【第8室】

如来三尊像

当館

如来三尊像

個人

十一面観音菩薩立像

当館

四天王立像残片

西大寺

阿彌陀如来立像(裸形)

浄土寺

梵天立像

秋篠寺

救脱菩薩立像

秋篠寺

【第9室】

【特別陳列】

「東大寺伝来の伎楽面

一部展示替えあり

―春日人万呂と基永師―を開催

令和6年10月1日(火)～12月22日(日)

【第10室】

不動明王立像

妙法院

不動明王坐像

正寿院

馬頭観音菩薩立像

浄瑠璃寺

不動明王立像

当館

不動明王立像

当館

【第11室】

女神坐像

当館

僧形神坐像

当館

男神坐像

観音寺

蔵王権現立像

大峯山寺

十二神将立像(子・巳神)

当館

持国天立像・増長天立像

法徳寺

天部形立像

個人

【第12室】

二天王立像

室生寺

毘沙門天立像

高尾地藏堂

帝釈天坐像

室生寺

吉祥天倚像

当館

【第13室】

金剛力士立像像内納入品

金峯山寺

阿彌陀如来立像

浄土寺

菩薩面

浄土寺

破損仏像残欠コレクション

当館

以上3件

10月20日(日)、11月13日(水)

「聖武天皇の大嘗祭木簡」を開催

当館

令和6年10月22日(火)～11月11日(月)

名品展

珠玉の仏教美術

西新館

【絵画】

令和6年12月7日(土)～令和7年1月13日(月・祝)

諸観音図像

当館

壺阪観音縁起絵巻

南法華寺

千手観音像

当館

千手観音像

南法華寺

千手観音二十八部衆像

当館

千手観音二十八部衆像

目安下之座区涅槃講

不空罽索観音像

一乗寺

春日南円堂曼荼羅

長谷寺

不空罽索観音像

個人

白衣観音像

当館

【書跡】

令和6年12月7日(土)～令和7年1月13日(月・祝)

大般若経 卷第九十六(魚養経)

当館

般若心経(隅寺心経)

興福院

瑜伽師地論 卷第二十七断簡

長谷寺

大方等大集経菩薩念仏三昧分 卷第九

当館

般若心経(神護寺経)

当館

神護寺如法執行問答

当館

法華経

丹生都比売神社

【考古】

令和6年12月7日(土)～令和7年1月13日(月・祝)

須恵器短頸壺

当館

灰釉短頸壺(茨城県新治郡八郷町出土)

当館

灰釉陶器皿(茨城県新治郡八郷町出土)

当館

須恵器甕(茨城県新治郡八郷町出土)

当館

須恵器鉢(茨城県新治郡八郷町出土)

当館

蓮弁文壺

当館

二筋壺

当館

壺(常滑)

当館

壺(渥美)

当館

灰釉櫛目文瓶子

当館

(和歌山県新宮市丹鶴山出土)

当館

瓦経

当館

泥塔経(伝鳥取県智積寺跡出土)

当館

宝塔形経筒

当館

伝滋賀県比叡山根本如法堂付近経塚出土品

当館

人面付蓮華文鬼瓦

当館

(伝八島廃寺出土)

当館

蓮華文方形軒瓦

当館

(南滋賀廃寺出土)

当館

東大寺大仏殿銘軒丸瓦

当館

東大寺大仏殿銘軒平瓦

当館

盛装男子埴輪（伝群馬県出土）  
当館

伯牙弹琴鏡（伝奈良県五條市出土）  
当館

令和6年12月7日（土）  
（令和7年1月13日月祝）

金銅独鈷杵  
当館

金銅三鈷杵  
当館

金銅五鈷杵  
施福寺

金銅三昧耶五鈷鈴  
金峯山寺

金銅密教法具  
唐招提寺

金銅輪宝  
当館

金銅羯磨  
当館

金銅一面器  
当館

梵鐘  
文化庁

梵鐘  
当館

罽口  
当館

雲版（天順二年銘）  
浄智寺

黒漆螺鈿卓  
東大寺

礼盤  
峰定寺

磬架  
当館

孔雀文磬  
当館

名品展

中国古代青銅器（坂本コレクション）

青銅器館

中国古代の商（殷）から漢代に製作された、青銅器の逸品を展示しています。

※●＝国宝、○＝重要文化財

※展示品は都合により一部変更する場合があります。

かなえ

鼎（紀元前11～10世紀）

◆ キャンパスメンバーズとは ◆

「奈良国立博物館キャンパスメンバーズ」とは、国立博物館と大学等との連携を図り、博物館が所蔵する文化財を核として文化や歴史とともに学ぶ場を提供する会員制度です。

加入していただいた学校には、次のような特典があります。

【特典例】

■名品展の無料観覧

学生証または教職員証の提示により、会員期間中は何度でも名品展（特別陳列含む・特別展除く）を無料でご観覧いただけます。

■特別展の観覧料金割引

①学生証の提示により、観覧料金が400円になります。  
②教職員証の提示により、観覧料金が100円引きになります。  
ただし、上記①・②について、別途定める場合がございます。  
※第76回正倉院展につきましては、事前予約制の「日時指定券」の購入が必要です。詳細は、当館ウェブサイト、正倉院展公式ウェブサイトでご確認ください。

■研究員による解説付きの特別鑑賞会の実施（要申込）

※展覧会により実施しない場合があります。

奈良国立博物館  
キャンパスメンバーズ 詳細

詳しい情報はこちらでご確認ください。

令和6年10月1日現在、「キャンパスメンバーズ」会員の大学等は以下の通りです。

追手門学院大学 文学部・国際学部・国際教養学部	大阪大学・大阪大学歯学部附属歯科技工士学校
大阪大谷大学	学校法人 関西大学
学校法人 関西学院	京都大学
学校法人 京都外国語大学	京都工芸繊維大学
京都女子大学	京都精華大学
京都橘大学	近畿大学 文芸学部・近畿大学大学院 総合文化研究科
嵯峨美術大学・嵯峨美術短期大学	四天王寺大学 人文社会学部・教育学部
就実大学 人文科学部	帝塚山大学
天理大学	学校法人 同志社
奈良大学	奈良教育大学
奈良県立大学	奈良工業高等専門学校
奈良女子大学	奈良先端科学技術大学院大学
佛教大学	立命館大学・立命館大学大学院
龍谷大学 龍谷大学短期大学部	

◆奈良国立博物館賛助会

令和6年10月1日現在、特別支援会員2団体、特別会員6団体、一般会員（団体）14団体、一般会員（個人）138名のご入会をいただいております。

〔特別支援会員〕

（株）読売新聞大阪本社  
（株）大和農園ホールディングス

〔特別会員〕

（株）奥村組西日本支社、（株）朝日新聞社、  
（株）ライブアートブックス、（株）葉風泰夢、  
結の会

〔団体会員〕

日本通運（株）関西美術品支店、（株）尾田組、  
（株）木下家具製作所、（株）天理時報社、  
（株）きんでん奈良支店、奈良信用金庫、ひかり装飾（株）、  
（株）南都銀行、小山（株）、（株）ワールド・ヘリテイジ、  
奈良県有名専門店会、（株）ゴードー、  
一般社団法人 茶道裏千家 淡交会 奈良支部

〔個人会員（新規）〕

喜多村 シャーンティ敦子 様 令和6年6月ご入会  
杉浦 嘉則 様 令和6年7月ご入会  
杉森 哲也 様 令和6年8月ご入会  
滑川 修 様 令和6年9月ご入会

【表紙解説】  
おうこんるり でんはいのじゅうにりようきょう

黄金瑠璃鈿背十二稜鏡

鏡胎…銀製  
鏡背…銀板に七宝釉（ガラス）、鍍金、金板貼付  
長径一八・五cm 短径一七・三cm 縁厚一・四cm 重二一七七g  
奈良時代または中国・唐ないし朝鮮半島・統一新羅（八世紀）  
正倉院宝物（南倉）

鏡背に華やかな七宝装飾を施した豪華な鏡。七宝とは種々の色に着色されたガラス質の釉を焼き付け、文様などを表す技法のこと。六枚の花弁と、その間にのぞく花弁が、全体として十二稜形を形作る意匠で、黄と緑の色鮮やかなガラス質の輝きも相まって、実に豊饒な装飾が展開されている。七宝の技法を用いる品は正倉院宝物では唯一であり、また、広く古代東アジアを見渡しても、七宝装飾を凝らした鏡は他に類を見ない。すぐれた意匠と、その稀少性において、とりわけ注目される逸品といえるだろう。

三本 周作（当館学芸部主任研究員）

## ❖ サンデートーク ❖

美術や歴史のこと、博物館の活動など、当館ならではの多彩なテーマ、日頃聞くことの出来ない「通(つう)」なお話をご用意して、皆様をお待ちしております。どうぞお気軽にご参加ください。

■ 10月20日(日)

### 「机のない学校？」

#### ー18世紀オーストリアにおける初等学校教育の変遷ー

久米 彩也加(当館学芸部研究員)

教室、教科書、黒板…18世紀の学校には、これらは存在したのでしょうか。ヨーロッパ内で最初期に義務教育制度を導入したオーストリアで、どのように学校教育が変化したのか、当時の人々の生活をちょこっと織り交ぜながらお話しします。

[受付期間 10月4日(金) 12:00～10月19日(土) 17:00]

■ 11月17日(日)

### 「東アジアにおける墓誌銘の歴史」

安 賢善(当館学芸部研究員)

墓誌銘は、石などに誌(墓主の伝記)と銘(墓主を讃える詩文)を刻み、墓の中に入れる副葬品です。古代中国を源とし、最盛期の隋唐代には非漢人の墓誌銘も多く作られました。その墓誌銘の歴史および東アジア世界への伝来についてお話しします。

[受付期間 11月1日(金) 12:00～11月16日(土) 17:00]

■ 12月15日(日)

### 「文化財を科学する区」

鳥越 俊行(当館学芸部保存修理指導室長)

12月17日より、昨年度に修理が完了した文化財を修理後初めて公開する「新たに修理された文化財」展が始まります。今回は、文化財の修理とそれに伴う科学的な調査についてご紹介します。

[受付期間 11月29日(金) 12:00～12月14日(土) 17:00]

■ 1月19日(日)

### 「古写真と仏像研究」

山口 隆介(当館学芸部主任研究員)

たった1枚の古写真が、仏像の知られざる歴史の一側面を明らかにすることがあります。仏像研究における古写真の有用性について、近年の調査成果をふまえてお話しします。

[受付期間 12月20日(金) 12:00～1月18日(土) 17:00]

■ 2月16日(日)

### 「密教法具の魅力の旅する」

三本 周作(当館学芸部主任研究員)

密教の儀式で仏との交信に欠かせない仏具が、密教法具です。その神秘性ゆえ、密教法具は不可思議な造形にあふれ、法具自体にも様々な意味合いが籠められました。2024年の「空海 KŪKAI」展で見聞した海外の作品も踏まえ、密教法具の奥深い魅力を探る旅にご案内します。

[受付期間 1月31日(金) 12:00～2月15日(土) 17:00]

■ 3月16日(日)

### 「文化財修理とX線CT調査」

加藤 沙弥(当館学芸部研究員)

文化財の多くは、数度の修理を経て今日まで守り伝えられてきました。今回は仏像修理を中心に、X線CT調査から明らかとなった修理の履歴と、CT調査が現在の修理にどのように活用されているのか、近年の調査結果とともにご紹介します。

[受付期間 2月28日(金) 12:00～3月15日(土) 17:00]

【時 間】 13:30～15:00 (13:00開場)

※本年4月より開催時間が変更となりました。

【会 場】 当館講堂

【定 員】 各回180名(事前申込先着順)

【申込方法】 当館ウェブサイトより必要事項をご入力の上、お申し込みください(WEB申込のみとなります)。

【受付期間】 各講座欄をご覧ください。

※聴講無料(展覧会観覧券等の提示は不要です)。

※聴講には事前申込が必要です(当日申込でのご参加はできません)。

※入場の際には、受付完了メール画面をご提示ください。

※応募は各回お1人様1回でお願いいたします。

※定員に達し次第締め切りとさせていただきます。

## ❖ 公開講座 ❖

### 特別展「第76回 正倉院展」

■ 11月2日(土)

#### 「紫地鳳形錦御軾再現」

##### ー伝統技術とデジタル技術の融合ー

講師：田中 陽子氏(宮内庁正倉院事務所保存課整理室長)

■ 11月10日(日)

#### 「黄金瑠璃鈿背十二稜鏡の魅力について」

講師：吉澤 悟(奈良国立博物館学芸部長)

【時 間】 13:30～15:00 (13:00開場)

【会 場】 当館講堂

【定 員】 各180名(事前申込抽選制) 座席自由

【応募期間】 9月24日(火) 10:00～10月8日(火) 17:00

【申込方法】 当館ウェブサイト「講座・催し物」→「公開講座」申込フォームより必要事項をご入力の上、お申し込みください(WEB申込のみとなります)。

【参加証の送付】 10月11日(金)までに抽選結果をメールにてお送りします。当選メールが参加証となりますので、メールの画面、または印刷したものを当日必ずご提示ください。

#### 【ご注意】

- ・今回の応募方法は、WEB申込に限りします。
- ・応募はお1人様各1回でお願いいたします。
- ・ご本人様以外の入場はできません。
- ・お預かりした個人情報、本公開講座の連絡のみに使用します。
- ・参加証で正倉院展展示室に入場することはできません。
- ・正倉院展展示室への入場は時間指定制です。講座の受講に関わらず、指定時間外の入場はできませんので、予めご注意ください。

奈良国立博物館

130周年の

記念ロゴが完成しました。



130の「0」に重ねて表したのは、国宝・薬師如来坐像の横顔。奈良国立博物館のコレクションの顔ともいえるべき、仏像彫刻の名品です。

その穏やかな眼差しが見通す130の向こう側、すなわちナラハクの未来を、一粒のドットで表しています。

カタカナの「ナラハク」は、レトロだけど親しみやすい、奈良国立博物館のイメージ。

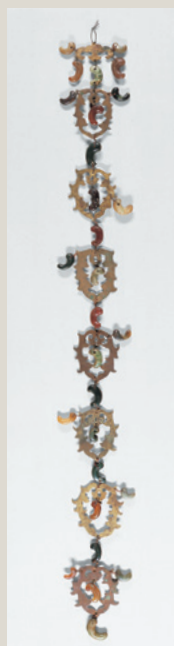
130年のその先へ、奈良の歴史が重ねてきた祈りと共に、新たな姿勢で進んでいくという意味を込めたデザインです。



## 第76回 正倉院展にて展示

### こんどうぎょうようがたさいもん 金銅杏葉形裁文

銅製 鍍金 瑪瑙 翡翠 碧玉  
全長99.7cm  
奈良時代(8世紀)  
正倉院宝物(南倉)



裁文とは銅板、革、紙などを文様形に裁断したもの。本品は頂の雲形金具の下に勾玉8枚と杏葉形金具7枚を交互に連ねている。仏堂内の柱や梁に懸け廻らし、厳かな空間をつくり出す荘厳具として幡や華鬘が知られるが、本品もそうした飾りの一部と推定される。

勾玉を加飾に用いた奈良時代の作例として、東大寺法華堂不空絹索観音像の宝冠がある。この宝冠は他に類を見ない豪華さで、金具が銀製鍍金、瓔珞に多量の宝玉を用い、勾玉は12個使用されている。これらは古くから伝世したいろいろな勾玉が集められたもので、不空絹索観音像の造立に際してそのような勾玉を寄進することで結縁しようとしたという説もあり、勾玉使用の意義が目される。正倉院宝物中に勾玉を用いる裁文は本品が唯一であり、特別な品として荘厳に用いられたのかもしれない。

羽良 朝風(当館学芸部研究員)

## 展示品の みどころ

## 「名品展 珠玉の仏教美術」にて展示

### せんじゅ かん のん に じゅうはち ぶ しゅう ぞう 千手観音二十八部衆像

絹本着色  
縦113.8cm 横64.1cm  
鎌倉時代(13世紀)  
当館



千本の腕をもつ千手観音が画面中央の蓮台の上に座っている。観音の頭頂からは涌雲が伸び、雲の上には腹前で定印を結ぶ阿弥陀如来が坐像で表されている。その周囲は彩色が薄れて見にくくなっているが、よく見ると観音の左右に眷属である二十八部衆が密集して立っており、画面

の下方中央には風神・雷神も見える。この場所は前方に水面のある岩場で、観音の住む補陀落山に千手観音と二十八部衆が姿を表した場面を描いたものといえる。

千手観音二十八部衆像の絵画作例は鎌倉時代中後期以降に知られるが、観音の頭上に阿弥陀如来坐像が表される点や、胎藏界曼荼羅に描かれる姿に一致する図像で千手観音が表される点、二十八部衆の図像が変わっている点など、珍しい図像が際立つ稀有な作例といえる。

箱書等の墨書から、奈良県天理市内にかつて所在した桃尾山龍福寺千手院の旧蔵品と知られる。布留滝(桃尾滝)の北側上手に所在した龍福寺は、山岳修業者の行場として知られ、中世には真言密教の道場として栄えた。本図がどのような経緯で描かれ、礼拝され、伝来したのか、関心がもたれる。

近年寄贈により当館所蔵となった絵画で、今回が収蔵後初めての展示となる。 北澤 菜月(当館学芸部情報サービス室長)

## ■開館日時(10月～12月)

### ■開館時間／午前9時30分～午後5時

※「第76回正倉院展」会期中(10月26日～11月11日)は、正倉院展は午前8時～午後6時(金・土・日曜日・祝日は午後8時まで)、名品展は午前8時～午後6時(金・土・日曜日・祝日は午後8時まで)

※名品展は10月・11月の毎週土曜日は午後7時まで。12月17日は午後7時まで。

※入館は閉館の30分前まで。(正倉院展は閉館の60分前まで)

### ■休館日／毎週月曜日、11月12日、12月28日～1月1日

※正倉院展会期中は無休。

※その他、臨時に休館日を変更することがあります。

### ■観覧料金 名品展・特別陳列・特集展示

	一般	大学生
個人(当日)	700円	350円

※高校生以下および18歳未満の方、満70歳以上の方、障害者手帳またはミライ〇IDをお持ちの方(介護者1名を含む)は無料です。

※奈良国立博物館キャンパスメンバーズ加盟校の学生及び教職員の方は無料です。

※高校生以下および18歳未満の方と一緒に観覧される方は子ども1名につき同伴者2名まで一般100円引き、大学生50円引きとします(親子割引)。

## ■前売日時指定券料金「第76回正倉院展」

(当日券の販売はありません)

	一般	高校・大学生	小・中学生
前売券	2,000円	1,500円	500円

※観覧には原則、事前予約制の「日時指定券」の購入が必要です(無料対象の方を除く)。

※障害者手帳またはミライ〇ID(スマートフォン向け障害者手帳アプリ)をお持ちの方(介護者1名を含む)、未就学児、レイト割(小中学生)、奈良博メンバーシップ会員の方(1回目及び2回目の観覧)、賛助会会員(奈良博、東博[シルバー]会員を除く)、九博)、清風会会員(京博)、特別支援者は無料。

※無料対象の方は、「日時指定券」の購入は不要です。証明書等をご提示ください(小中学生以下は不要)。

※日時指定券は、ローソンチケット[Lコード:59600]インターネット(<https://l-tike.com/76shosoin-ten/>)、ローソンおよびミニストップ各店舗、CNプレイガイド[〇コード※入館開始時間ごと:①月～木曜日:午前8時～正午 237-091、②月～木曜日:正午以降 237-092、③金・土・日曜日、祝日:午前8時～正午237-093、④金・土・日曜日、祝日:正午以降237-094]電話(自動音声)0570-08-9920による受付のみ、展覧会オンラインチケット(<https://www.e-tix.jp/shosoin-ten/>)、美術展ナビチケットアプリで販売します。

※本展の観覧券で、名品展(なら仏像館・青銅器館)もご覧になれます。

※詳細は、当館ウェブサイト等で確認ください。



[交通案内]近鉄奈良駅下車徒歩約15分、またはJR奈良駅・近鉄奈良駅から奈良交通「市内循環」バス(外回り)「氷室神社・国立博物館」下車すぐ。

※当館には駐車スペースがございませんので近隣の県営駐車場等(有料)をご利用ください。



奈良国立博物館  
NARA NATIONAL MUSEUM

〒630-8213 奈良市登大路町50番地(奈良公園内)

ハローダイヤル 050-5542-8600

ウェブサイト <https://www.narahaku.go.jp/>

『奈良国立博物館だより』は、1・4・7・10月に発行します。郵送をご希望の方は、何月号かを明記し、返信用封筒を同封して、当館の情報サービス室にお申し込みください。  
※返信用封筒には宛名を明記し、長形3号の場合は110円切手を、角形2号の場合は140円切手を貼付してください。